法人だより たまふく

社会福祉法人 多摩福祉会
きもちつながる、想いひろげる。

受け入れ期
～たくさん意見を交わして

練馬区立向山保育園園長　中本琢也

今年度より向山保育園の園長となりました中本琢也と申します。改めましてよろしくお願い致します。２０１０年から向山保育園で働き始め、子どもたちや保護者のみなさん、職員のみんなとたくさん笑って時に涙しながら共に成長してきました。

新年度を迎えるにあたって、新しい職員集団でどのように子どもたちを受け入れていくか、クラス毎や園全体でたくさん話し合いや準備をしてきました。いくら準備をしても子ども達はそれ以上に色々な姿を出しますね。その際には「日課はこうした方がいいのでは」「安心する環境とは」「こんな好きなことを見つけた」「1週間だけど成長したよね」等など様子を共有し、意見を交わして次に生かすようにしてきました。このように日々の子どもたちの様子から、職員間でたくさんのやり取りを重ね、共に悩みながら進んでいくことを大切にしています。そのような子どもの育つ力と職員の頑張りが相まって、新年度開始から1か月程度で落ち着いた生活ができるようになりました。

保育園生活の中では、自分の想いを言葉で伝えること、相手の話を聞くこと、そこから折り合いをつけていくことを子ども達に伝えたり一緒に考えたりしています。泣いたり、噛みついたりひっかいたりしていた子が、言葉などの気持ちを伝える手段を知る中で、自分でやり取りすることはもちろんのこと、卒園する頃にはみんなで話し合って一つの事を作り上げることができるようになります。

当たり前のように子どもたちには求めているのに、大人になるとなぜかうまくできなくなることがあります。昨今不適切な保育が取りざたされていますが、「そのやり方は子どもにとってどうなんだろう」「私も悩んでいるんだ」ということが職員間で上手に伝えられていたら、また違った保育の展開ができていたのではないでしょうか。世界の大人が子ども達と同じように、気持ちを伝えたり、様々な個性を受け入れたり、「ごめんね」「ありがとう」を普通に言うことができるようになれば、平和で幸せな社会が実現することでしょう。

まずは保育園として目の前の子ども達の育ちに必要なことをたくさん語り合い、悩み合いながら毎日の保育を楽しんでいけたらと思っています。

話は変わりますが、家庭では0歳児クラスと3歳児クラスに息子を通わせる父でもあります。4月には息子の保育園から体調不良の連絡が何度か入り、保護者の皆さん同様、保育園最初の洗礼を浴びました。園長でありながらも周りの職員から「お迎え行っておいで」「明日は休んでいいから」と声を掛けてもらえることが本当にありがたく、頼もしい職員集団だと感じます。そんな向山保育園だからこそ園長をやろうと決意できましたし、向山のみんなの為にどっしり構えてがんばることができるのだと思います。園長としても保護者としても、周りのみんなと共に成長できたらと思います。

向山保育園に遊びに来られた際や外でお会いした時は、保育の事や子どものことたくさんお話ししましょう。

中本新園長とお子さんたち

連絡先
〒155-0031
東京都世田谷区北沢 2-36-9-4F
社会福祉法人多摩福祉会
法人事務局
◆Tel.　03-6804-8345
◆Fax.　03-6804-8347
tamafukushikai@gmail.com

今号の目次

1p　受け入れ期
2p　わたしの学童クラブ人生
3p　にじのおうちの新年度
4p【連載】学童クラブの受け入れ

わたしの学童クラブ人生

「ごりくん」こと
渡辺新施設長

今年度より永山学童クラブの施設長になりました渡辺智士（わたなべさとし）と申します。学童クラブでは職員を愛称やあだ名で呼ぶ文化があり、学童クラブ内では『ごりくん』と自分の昔からのあだ名で呼ばれております。多摩福祉会には２０１２年に入職し、気が付けば 10 年が経っておりました。法人内では主に研修委員として、合研や中堅層研修を運営してきた関係から顔だけはご存じの方も何人かおられるかもしれません。この掲載を通して私自身の事を少しでも知ってもらえればと思います。

私は、栃木県の南東部出身で男3人兄弟の末っ子です。幼いころから兄に連れられて行く公園で、近所のお兄さんたちとケイドロやSケン、陣とりといった遊びをよくやっていました。過去の新入職員研修でも話したことがありますが、この時に６個年上のお兄さんとの押し合いに兄弟３人で力を合わせて勝った時の充実感が私の遊びの原点になっています。

◎自分と学童クラブ

私自身も学童クラブに2年生まで通っていました。かすかな記憶ではありますが、1年生の時に持っていったお弁当が大人サイズで驚かれたこと、毎日のように上級生に交じって蹴り野球をして遊んだことを覚えています。最も不思議なことは、怖い怖いと泣いた1つ上の学年の女の子が現在兄の嫁になっていることです。

大学進学と共に上京すると、サークル活動で児童館や学童クラブのボランティアを始めました。この時のとある学童クラブでの行事の手伝いの際に、主体的に活動する子どもたちの姿がとても印象的でした。大学卒業後、臨時職員として多摩市の学童クラブで働いている時に多摩福祉会を知り、縁あって現在に至ります。

◎自分と永山学童クラブ

２０１５年に多摩市より委託された最初の年から4年間は永山学童クラブで勤務していました。中村真理子施設長(現 貝取小学童クラブ施設長)と入職したばかりの笠井支援員と常に意見を交わし合いながら育成を行っていました。段ボール工作に夢中になっている子がいたので、段ボールカッターを購入して廊下に工作コーナーを設置し、やりたい遊びが思いっきりできるようにしました。すると、保護者の方から『最近うちの子が学童楽しいって言ってさ。本当にありがとね！』と言われたことがとても嬉しくて、この時の子どもと保護者の笑顔が今でも私の仕事の原動力になっています。

他にも多くの思い出がありますが、その中でも卒クラブ式で保護者の方とバンドを組んで、曲に合わせて子どもたちとダンスを踊ったことがとても印象的です。子どもと保護者と職員で協力して行事を開催してきた永山学童クラブならではの体験でした。自分のもう1つのホームのように感じている施設です。

◎久しぶりに帰ってきて

4月に毎年恒例の新入所歓迎会を近くの公園でやっているとひとりの高校生が『ごりくんだよね。私、高校生になりました。』と挨拶をしてきました。『おぉ、久しぶり。永山学童に帰ってきたから遊びにおいでよ。』と話すと『おかえりなさい』と深々とお辞儀をされ、自分は帰ってきたんだなとしみじみと実感しました。

学童クラブに通っている子もそうですが、卒クラブしていった子どもたちも気軽に帰ってこられるホームのような学童クラブにできたらなと思っています。至らない点もありますが、皆様どうぞよろしくお願いいたします。

2023 年度の「たまふく」は
このメンバーで作っています。
よろしくお願いします！

●広報委員会●
中本　琢也
江藤　龍之介
平田　桃子
岡田　織

大人も子どもも「はじめまして」「よろしくね」
～にじのおうち（0歳児）の新年度～

こぐま保育園　保育士

【利用定員の変更】

今年度から、利用定員を 6 名減らして 15 名になりました。少子化と、コロナ禍の影響もあって新年度に定員が埋まらない年が続き、昨年度は年度初めの8名からスタートして、10 月に 21 名がそろいました。育休明けや転居などで年度途中に入所できることは、保護者にとっては歓迎すべきことですが、園運営にとっては空き定員分の収入が入ってこないという制度の矛盾もあり、出生率なども踏まえながらの苦渋の選択です。

【受入れ保育スタートは親子で登園】

今年度は 10 名のスタートで、4月1日（土）に入園式を行い、1日に1名、3日に5名、6日に1名、11 日に3名、13 日に1名と、順番に受入れ保育をはじめました。最初の2日間は親子登園です。おうちの方が一緒にいるので、子どもたちは安心して周りを見回したり、ひざから降りておもちゃを取りに行ったりしていました。そんな様子を見て、お母さんやお父さんも安心し、「こんな遊具が好きなんですね」「何か月ですか？」と会話をして和やかでした。食事では、まずおうちの方に食べさせてもらい、離乳食の形状や食べさせ方を保育士や栄養士と確認していきます。

【次第に慣れてかかわりが増えていく子どもたち】

受入れ3日目からは、おうちの方と離れて過ごすことになり、子どもたちは一気に不安な表情を見せ始めました。 A 君はあそぼう会の常連さんで、お母さんはすぐに園生活に慣れてくれるだろうと思っていたそうですが、お母さんの姿を必死で追い求めていました。他にも、担任の保育士をすぐに覚えて離れるのを嫌がり、ずっとしがみついていたＢちゃん、自分一人だけで抱っこして欲しくて他の子が来ると泣きだしてしまうＣちゃんなど、一人ずつ抱っこしていないと泣き声が収まらない状態でした。そして、2時間半くらい起きていると眠くなってしまう子がほとんどで、1人ずつ抱っこで入眠、やっとベッドで眠れても 30 分で起きてしまうという日々でした。

そんな受入れ期でしたが、家庭のご都合に合わせて受入れ保育スタートの日をずらしたことで、一人一人にしっかり向き合うことができ、子どもたちも次第に落ち着いていきました。職場復帰している家庭は保育時間も通常になり、朝は7時半から、夕方は 18 時まで過ごす子もいます。子ども同士のやり取りも出始めて、ほほえましい姿を見せてくれるようになりました。4月1日から保育園で過ごしているＤ君は、泣いている子が多い中でもご機嫌で遊び、いつの間にかおすわりが安定し、滑り台が気に入って、ひたすら登り降りを繰り返しています。12 月生まれのＥちゃんとＦちゃんは、寝返りをして体が触れ合うと、お互いの服を握ったり、見つめ合ってにっこりしたり。 G くんと A 君は同じグループで気が合い、遊具のトンネル越しに微笑み合っています。高月齢の女の子同士のＢちゃん、Ｈちゃん、Ｉちゃんは、おもちゃをどうぞとやり取りしたり、向かい合って何やらお話ししたりしていました。そして5月には Ｊ君が入園。あまり人見知りせずニコニコするＪ君を、月齢の近いＫ君が嬉しそうな顔をして見つめていました。

子どもたちと共に、あと4名の新しいなかまを迎え入れていきたいと思います。

新連載～第１回～（全４回）
学童クラブの受け入れ

小学1年生っていつから？と聞かれると、入学式後からというイメージが強いですよね。学童クラブ内でも子どもたちに聞くと「春休みに入ったら」「いや春休みが終わったら」と意見が分かれます。実際は4月から切り替わるので、学童クラブでは春休み中の4月1日から新入生の受け入れをしていきます。ほとんどの1年生は学校が始まるより前に学童クラブに通う事になり、最初は緊張と不安でいっぱいです。今まで園の中でも一番年上でちょっと「大きい顔をして」いられた生活から一気に一番年下になってしまいます。しかも大人とは違う自分より大きいお兄さんお姉さんの中に入って行く訳ですから、圧倒される子もいます。「仲良く遊べるかなぁ」と気にしていたり、「お家に帰りたい」と泣いてしまったりする子もいます。子どもたちは不安と緊張の中で学童クラブの生活をスタートしていくのです。

その中で頼れるのはお兄さんお姉さんたちです。「まず来たらこれをやって、次は～」「ロッカーの場所は～」「お名前は？」としっかり新入生たちをエスコートしてくれます。その先輩たちもそれぞれが1年生のはじめは緊張した面持ちで入所してきていました。そんな彼らの様子を見て「こんなしっかりした上級生になって。自分たちがしてもらった経験を今度は下の子にとしっかり受け継いでいっているなぁ」と感慨深く振り返る初日の職員のお昼休憩中です…。

さて、新1年生が学童クラブで1日過ごす生活が3、4日ほど続いて春休みが終わります。ですから入学式の日には、学童クラブに通っているお子さんのほとんどがすでに顔見知りがいる学校生活のスタートになります。そして翌日から、学校のあと学童クラブという本格的な小学生ライフがスタートします。子どもたちは学校・学童クラブ・地域の中でたくさんの刺激を受け、登所時など大人の目がない自由な時間や、日々発生する様々な事を経験していきます。

保護者が初めて『小学生になった我が子に衝撃を受ける事』の一つが、子どもたちの言動。「そんな言葉どこで覚えてきたの！」です。大体は高学年のやりとりを見ていたり、兄弟がいる子の言動からマネしたりするケースです。そして学校や学童クラブに「どうなっているんですか!?」という問い合わせがあります。私たちが気付けば注意はしますが、様々な家庭の子どもたちが一緒に過ごしている中で、また最近では YouTube などの動画を見て刺激を受けている中で、一部の大人の注意だけで直していく事は傘一本で台風を避けるのと同じぐらい難しい事です。そして子どもの立場から見たら、せっかく楽しい学校生活で見つけた心の友の言動を大人に否定されたらどう思うでしょうか？板挟みになってせっかくできた友を失うかも知れないし、その大人に反抗するようになると思いませんか？

じゃあどうしたらいいのでしょう。様々な考えがあり、正直これが正しいとはっきりは分かりません。でもそんな時、学童クラブでは子どもたちに、『その言動をされてどう思うか』『周りでみていてどう思うか』を相手に伝えてみようと話しています。それは大人も子どもも変わりないのではないでしょうか？「私はそれ言われたらいやだなぁ」と大好きな人に言われたらどうですか？子どもの中でも何か変化が起こるかもしれません。

子どもたちに降る雨を止めることはできませんし、いつまでも大人が傘を差して守る事はできません。でも雨の回避に様々な方法がある事は教えられます。大人がどれだけ対応方法を教えてあげられるかによって、いざ困難にぶつかった時に子どもたちが自分で考えて行動できるようになります。どうしたらいいか率直に子どもたちと話し合ってみるのもいいかもしれませんね。

さて、本日も子どもたちの元気な「ただいま～」で学童クラブがスタートします。今日はどんな事が起こるでしょう。

筆者：中村　輝（なかむら　あきら）
２０１１年貝取学童クラブ入職、その後コロナ禍での施設長3年間を経験。現在は3児（小2女子、年中男子、1歳女子）のパパ。保育士の妻が4月に育休復帰した事もあり家庭都合で施設長退任。毎日仕事・育児・家事に絶賛奮闘中！

以前からこれから小学生に上がるお子さんを持った保護者や職員向けに、学童クラブから見た小学生の様子についての情報発信が「たまふく」でできたら良いなぁと思っておりました。全4回掲載予定です。どうぞよろしくお願い致します。